

## 同性婚カップルの結婚式に参列



武内 彩

バンコクで結婚式に招待され、4月下旬にチャオプラヤ川沿いの会場であった式に参列した。タイの伝統的な様式も楽し

みだったが、どうしても出席しなかった理由は他にもあった。主役の2人がようやく婚姻が認められた女性同士のカップルで、門出を祝いたかったのだ。

タイでは今年1月23日に同性婚を認める法律が施行され、アジアでは台湾とネパールに次いで3番目に同性婚が可能となった。結婚式を挙げたクアンボン・コンペットさん(32)とプロイナパット・ギラットスくんさん(33)は、初日に婚姻届を出した。

この1年前に初めて2人に取材した時は、法制化まであと一歩という段階だった。高校の同級生として出会い、当初は家族に交際を反対されたこともあったが、人生の半分近くを一緒に過ごしてきた。それでも「法的には保障されない関係だ」と話し、法制化実現を心待ちにしていた。そして婚姻届が受理されると、涙をこらえて喜びをかみしめていた。

そんな2人の結婚式には、指定されたピンク色の

服で着飾った親族や友人らが集まった。午前8時の開場に合わせて会場に着くと、入り口で伝統衣装に身を包み、緊張とうれしさが交ぜになった表情をした2人が出迎えてくれた。会場には円卓がいくつも並び、クアンボンさんの祖父を含めた両家の親族がにこやかに席に着いていたのが印象的だった。

披露宴も兼ねたような式はのんびりと進行し、現金や金細工などの結納品を親族に披露したり、参列者が巻き貝に入った水を2人の手にかけて幸せと健康を願う「ロットナムサン」というタイならではの儀式も行われた。

最後に2人があいさつに立った。プロイナパットさんが「女性同士のカップルだと差別的な見方をされたこともある。結婚なんて無理だと言われてきたけれど、今日この場に立てた」と声を詰まらせながら話すと、法制化を求めて一緒に運動してきた仲間から大きな拍手が起きた。クアンボンさんからは「いつか日本でも同性婚が認められるように願っている」というメッセージを託された。

式は午後1時過ぎにお開きとなった。タイ料理を食べて、ブーケトスに参加して大笑いし、幸せな気持ちで家路についた。